

御祭神

おこなむちのみこと
大己貴命(別名 大国主命)

〔撰社〕 手摩乳・足摩乳神社 てなづちのみこと あしなづちのみこと

素盞鳴神社 すさのおのみこと 素盞鳴命

〔末社〕 稻荷神社 うかのみたまのみこと 宇加之御魂命

愛宕神社 ほむすびのみこと 火産霊命

熊野神社 はやたまおのみこと 早玉男命・事解男命

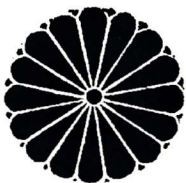
菊理比売命 くくりひめのみこと

〔奥宮〕 瀧神社 たかおかみのみこと 高龕命

御祭典

歳旦祭	一月一日
月次祭	毎月一日
愛宕神社例祭	(旧暦) 一月二十四日
祈年祭	二月十七日
稻荷神社春祭	(旧暦) 二月初午
瀧神社春祭	三月彼岸
夏越大祓	六月三十日
夏祭(御神幸祭)	八月一日・二日
稻荷神社秋祭	(旧暦) 九月初午
瀧神社秋祭	九月彼岸
新嘗祭	十一月二十三日
例大祭(冬祭)	十二月四日・五日
大祓・除夜祭	十二月三十一日

日向なる一の宮こそ日の本の



一の宮の中のその一の宮

日高 重孝(「日向の山彦」より)

〒889-1201
宮崎県児湯郡都農町大字川北 13294 番地
都農神社社務所
電話 0983 - 25 - 3256 F A X 0983 - 25 - 0617

日向国 一之宮 都農神社御由緒



本日は都農神社へ、ようこそその御参りで御座います。

当神社は、御祭神、大己貴命（おこなむちのみこと）を奉斎しており、古くから日向国一之宮として称えられ又、都農町の総鎮守としてその御神威を今日に伝えられています。特に縁結び・病気平癒・子孫繁栄・家内安全・商売繁盛などの御利益があるとして年間を通して多くの方々の参拝が御座います。

何卒、大神様の御神徳を戴かれますよう御祈念申し上げます。

都農神社

都農神社の御創建

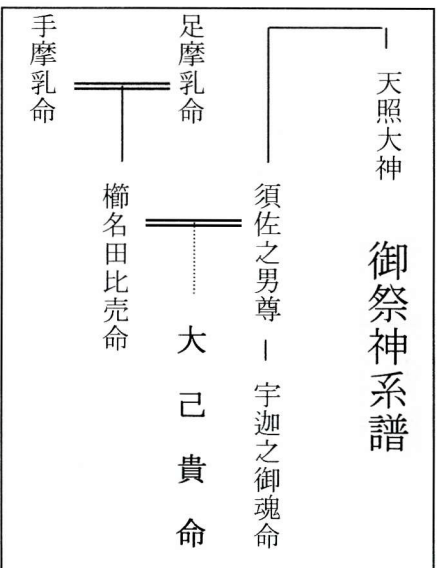
創祀されたのは御即位六年前の神武天皇が宮崎の宮を發し東征の折、この地に立ち寄り、国土平安、海上平穩、武運長久を祈念し祭神を祀った事とされる。社殿は壮大、境内広闊であつたとされるが島津・大友両家の争いで大友家による兵火により焼失。元禄五年に藩主秋月種政により再興されるまで小さな祠があるのみの状態だった。現在の神楽殿(旧拜殿)は安政六年に再建されたもので、明治天皇が即位された時に、神祇を崇め、祭祀を重んずるの大典を挙げられ、明治四年五月県内最初の国幣社に列せられた。境内も昭和九年に神武天皇御東遷二千六百年を記念し拡張整備された。

現在の新社殿は、旧社殿の老朽化に伴い、平成十四年より、「平成の大造営」と銘打って、五年計画で、皆様方のご協力によりまして、平成十九年に完成し七月七日の夜に御神体を御遷ししました。

都農神社の編纂史

- 承和 四年 (八三七) 官社に列せられ、神階の宣授「続日本後紀」
- 天安 二年 (八五八) 従四位上が授けられる「日本三代実録」
- 延長 五年 (九二七) 式内社に列せられる「延喜式神名帳」
- 天正 六年 (一五七八) 島津・大友両軍の騒乱により社殿焼失
- 元禄 五年 (一六七二) 高鍋藩主秋月種政により社殿の再興
- 安政 六年 (一八五九) 篤志家の社殿の寄進
- 明治 四年 (一八七一) 国幣社に列せられる
- 昭和 九年 (一九三四) 神門・境内の拡張整備
- 平成十四年 (二〇〇三) 御造営奉賛会設立
- 平成十九年 (二〇〇七) 新社殿完成

御祭神系譜



夏祭(御神幸祭)



夏祭は、天保三年に第九代秋月藩主の認可を受け、再復興を致し、現在に至っております。県内外においても見られない勇壮で盛大なお祭りであります。また、御神輿は、大正十一年に購入され同規模のものは、国内に数台しかありません。

例大祭(冬祭)



冬祭は、元々、例大祭とは別々でしたが、昭和二十二年から、併せて執り行われ、御神楽は立居振舞が高尚優美、勇壮活発なことから如何にも神々しく、神人合一、神ながらの神楽として、古くは奈良時代に、畏くも、宮中より八回も御招き頂き御前演奏により過分の賞賜のことが「日向高鍋神楽の由来」に記されております。

写真 都農神楽 六番 鬼神舞